

今、新たな大学図書館のミッションを考える 利用教育、大学図書館の生命線

私立大学図書館協会研究集会

平成18年9月8日

京都大学附属図書館

情報サービス課長 片 山 淳



利用教育、大学図書館の生命線 はじめに

自己紹介

1. 図書館サービスの種類と利用教育
2. 利用教育とは何か
3. 京都大学附属図書館における事例
4. 利用教育、大学図書館の生命線
5. おわりに



利用教育、大学図書館の生命線

1. 図書館サービスの種類と利用教育

❁ 図書館サービスの種類

資料提供サービス

情報サービス

利用教育・情報リテラシー

図書館の文化活動

❁ 利用者に応じた図書館サービス

❁ サービスに関わる問題と危機管理



利用教育、大学図書館の生命線

2. 利用教育とは何か

2-1. 利用教育とは

2-2. 利用教育の意義

2-3. 利用教育のガイドライン

2-4. 情報教育と利用教育

2-5. 大学のカリキュラムと利用教育
⇒ 情報フルーエンシー教育



利用教育、大学図書館の生命線

2-1. 利用教育とは

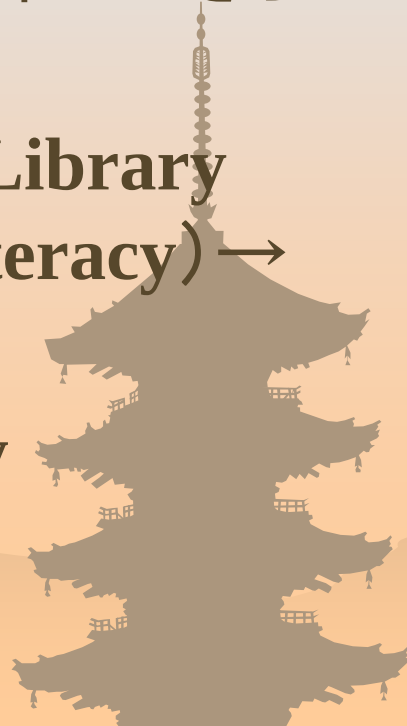
- ❁ Library Use(r) Education
- ❁ 図書館にとって「必然的」なもの
- ❁ Reference Serviceの一環→→利用者サービスの一つ
- ❁ 「図書館の使い方」に留まらず「すべての利用者が自立して図書館を含む情報環境を効果的・効率的に活用できるようにするために、体系的・組織的に行われる教育」的なサービス
- ❁ 図書館が扱うメディアの多様化・高度化が進み、体系的・組織的「指導プログラム」の必要性が高まってきた



利用教育、大学図書館の生命線

2ー2. 利用教育の意義

- ❁ **利用の効率化**: 利用者のニーズに応じた「図書館の使い方」を修得することで資源を活用
- ❁ **利用の促進**: 潜在的な利用者に対して、図書館利用の有効性や有用性を周知し、既存の利用者にはさらに活発な図書館利用を促進
- ❁ **利用者の育成(skill-up)**: 図書館を使う力(Library Literacy)や情報を使う力(Information Literacy) → 米国では基準が策定され、指針が公表
- ❁ **ACRL:Information Literacy Competency Standards for Higher Education 2000**



利用教育、大学図書館の生命線

2ー3. 利用教育のガイドライン

“Library Orientation” と “Bibliographic Instruction”

日本図書館協会・図書館利用教育委員会

「図書館利用教育ガイドライン」2001年3月

＊ 大学図書館で実施すべき10項目と手順

1. 理念確認、2. 組織確立、3. 現状分析
4. 目的・目標設定、5. 方法・手段設定
6. 財政確立、7. 担当者の採用と研修
8. 施設・設備、教材、広報手段の提供
9. 協力体制の確立、10. 評価の定量化



利用教育、大学図書館の生命線

2ー4. 情報教育と利用教育

- ❁ 情報教育の十八年度問題
- ❁ 全学共通「情報教育科目」と学部提供の「情報基礎教育科目」のあり方
- ❁ 京都大学における全学共通情報教育モデル
- ❁ 統一的な科目を設計するのではなく、自由の学風を尊重し、学生の自主的な勉学意欲に応えるために、多様な選択が行えるよう配慮、内容の高度化を図る
- ❁ リレー講義による具体的利用教育を実践
→ 全学共通科目「情報探索入門」



2-5. 情報フルーエンシー教育

Fluency 流暢に、流れるように、淀みなく、能弁

* コンピュータやインターネットなどの使い方に関する教育→→→情報フルーエンシー教育

3本柱 (Skill、Concept、Capability)

* スキル教育 (情報教育Ⅰ 群科目)

* コンセプト教育 (情報教育Ⅱ 群科目)

* ケーパビリティ教育 (情報教育Ⅲ 群科目)

〔出典:「情報フルーエンシー:大学のこれからの『情報教育』」

田中克己教授 (情報学研究科) 共通教育通信 Vol. 5 2005秋〕



利用教育、大学図書館の生命線

3. 京都大学附属図書館の事例

- ❁ ガイダンス(新入生)(総合人間学部、附属図書館)
- ❁ 図書館オリエンテーション
- ❁ 3-1. 全学共通科目「情報探索入門」
- ❁ 論文・レポートを書くための文献収集講座
- ❁ Workshop(随時、各種データベース、e-J)
- ❁ On Demand 講習会(キャンパス毎)
- ❁ 3-2. 医学情報の探し方(授業の中で)
- ❁ 教育学研究科社会人専修コース
「教育人間政策論」



利用教育、大学図書館の生命線

3-1. 全学共通科目「情報探索入門」

- ❁ 提供部局：附属図書館（代表者：川崎良孝教授）
- ❁ 図書館長以外に5名の教員によるリレー講義
- ❁ 学内の図書館職員（企画担当は参考調査掛、20名近くの図書館職員）による演習
- ❁ 演習は講義担当の教員と図書館職員の協力で実施（教員1名に対して3～4名の職員）
- ❁ 演習毎に課題を出し学生はその課題の一つについてレポートを提出→→→評価材料
- ❁ テキスト：レファレンス事例集「access.txt：文献調査・利用ガイド」（Version 7）
- ❁ 講義録「大学生と『情報の活用』：情報探索入門」（増補版）日本図書館協会



利用教育、大学図書館の生命線 「情報探索入門」: 講義のテーマ

- ❁ 「図書館情報、図書館の種類とその機能」
- ❁ 「学問・研究・文献・情報」
- ❁ 「分類の一般概念と分類理論」 ＋演習
- ❁ 「目録情報とその利用法」 ＋演習
- ❁ 「参考資料の種々とその利用」 ＋演習
- ❁ 「インターネット情報およびデータベースとその活用法」 ＋演習



利用教育、大学図書館の生命線

「情報探索入門」: 講義に対応した演習の内容

- ・「**分類の一般概念と分類理論（演習 1）**」
本の分類とWebページの分類（リンク集の作成まで）
- ・「**目録情報とその利用（演習 1）**」
文献と情報の所在を突き止める：演習課題集
- ・「**参考資料の種々とその利用（演習 2）**」
基礎的な参考図書の概説と参考図書室で実際の演習
- ・「**インターネット情報およびデータベースとその活用法（演習 2）**」
基本問題（2）と応用問題（1）から三課題を選んでインターネットから情報を収集してレポートを作成する



利用教育、大学図書館の生命線 「情報探索入門」:学内外の協力を得て

図書館機構と情報環境機構

附属図書館研究開発室

情報システム（情報学研究科、学術情報メディアセンター教員）

貴重書・古文文献（文学研究科教員）

企画展示会（テーマに応じて）

蔵書整備・保存（文学・経済学研究科教員）

情報リテラシー（情報探索入門担当教員）

学外の専門家に調査研究員を委嘱



利用教育、大学図書館の生命線 「情報探索入門」：受講者アンケート

【平成11～16年度】

履修登録者数(学部別、学年別)、講義の内容、演習の内容、
取り上げたテーマについて、受講して役立ったと思うか、
期待する内容であったか、補助者が役に立ったか、
補助者の人数について、この講義を友人・後輩に薦めるか

【平成17年度】

最終講義で依頼できず、メールで依頼したため受講生の約30%の回収率

【平成18年度】 月曜日5限→→→金曜日3限へ移動

様式変更し評価に点数制を採用。講義ごとにアンケート。質問を受け付け。
HPから回答を出す。詳細な分析・評価を行う予定。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/modules/tinyd2/index.php?id=6>



利用教育、大学図書館の生命線

3-2. 医学情報の探し方(授業の中で)

- 3-4月 「図書館の利用について」 医員・研修医オリエンテーション
4月 「OPACの使い方」 講習会
「課題解決学習:学術情報の収集:医学・生物系の情報検索」ナノメディシン融合教育ユニット、選択科目 Problem Based Learning
- 4-5月 「文献検索評価法」(社会健康医学基礎スキル) 社会健康医学系専攻専門職学位課程、選択科目
「医療情報リテラシー」医学科1回生、必修
- 5月 「医科学研究」医科学専攻修士課程1回生、必修科目
6月 「オンラインジャーナルの使い方講習会」
「SciFinder Scholar講習会」
「医学文献の探し方」基礎編(奨励授業)保健学科1回生
- 7月 「UpToDate講習会」
10月 「D医療情報学(→医療情報リテラシー)」医学科3回生、必修
「Scopus講習会」
「医学文献の探し方」(奨励授業)保健学科3回生
- 11月 「PubMed講習会」
12月 「Web of Science & Derwent Innovations Index」
1月 「効果的な文献検索結果の活用—EndNote利用—講習会」



4. 利用教育、大学図書館の生命線

4－1. 学術審議会の答申に見る利用教育への提言

4－2. 学生の意見や要望を反映

4－3. 教員とのチームワーク

4－4. 利用者とのコミュニケーション

4－5. 業務改善・組織変革の中から



利用教育、大学図書館の生命線 学術情報基盤の今後の在り方

利用教育への提言：大学図書館のサービス機能の強化

人材確保・育成

専門性・国際性を持った職員のキャリアパスの創出

教育支援サービス機能の強化

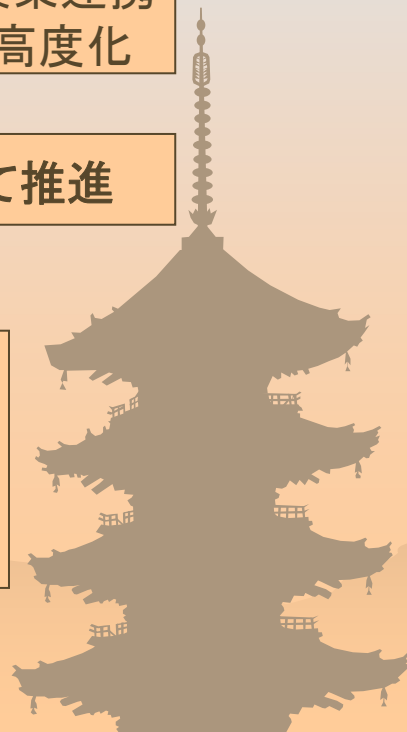
シラバス、指定図書制度、授業連携
主題等のパスファインダー高度化

情報リテラシー支援事業

教員との連携を強化して推進

利用者ニーズへの対応

電子資料へのニーズを
的確に把握し、効果的・
効率的な利用に
積極的に対応



利用教育、大学図書館の生命線 学生の意見や要望を反映して

- ❁ 京都大学学生生活白書(2年に1回の実態調査)
平成17年:約20%の学生「附属図書館をよく使う」
20%を超える学生が「学部図書館・室をよく使う」
 - ❁ 「Campus Meeting」(学部・研究所・センターで)
 - ❁ 「キャンパス討論会」(離れた地区で)
- ⇔⇔⇔
- ❁ コミュニケーションの場を設定
 - ❁ 学生の意見や要望を図書館運営に
反映し、参加意識を醸成



利用教育、大学図書館の生命線 学生の意見に見る京大図書館

2年に1回の学生生活実態調査「自由記述」に記入された図書館への意見

平成17年 80人／576／1,626 vs 平成15年 45人／349／819
4.9% 13.9% 5.5% 12.9%

学部図書館の開館時間、土日開館（12） 京大図書館に満足（11）
附属図書館の開館時間・期間・土日の開館時間延長（10）
キャンパスの図書館の充実（9） 蔵書の充実（8） BNC移転問題（8）
図書館の開館時間を長く（6）
附属図書館の環境整備（温度調節、静電気対策）（5）
附属図書館の施設・サービス（5）
学部図書館の充実（5） 図書館が分散していてわかりにくい（4）
資料の貸出・貸出期間（4） 夜遅くまで勉強できる場所が欲しい（22時閉館は不便）（3）
学部図書室の環境整備（3） 図書館の休館日について（2）
図書館（座席）を増やして（1） 図書館・室のコピーサービスについて（1）
図書の検索（OPAC）の充実（1）
学部の初年度に「情報探索入門」のような講義を制度として実施（1）
図書館の本の装備（1） 職員の対応（1） その他（3）



利用教育、大学図書館の生命線 教員とのチームワークで

- ❁ **機関リポジトリ** 京都大学学術情報リポジトリ(試験公開約9,000件)
コンテンツ:工学研究科の研究成果(約6,000)
貴重資料画像データ(約3,000)

- ❁ **OCW(OpenCourseWare)** 46科目(7月1日現在)

総合人間学部5(シミュレーション概論、連続体力学、計算理学基礎理論、熱力学、統計物理学)、医学部1(臓器移植)、薬学部1(臨床薬物学)、工学部6(物理工学・基礎情報処理、情報学・画像処理論、同・コンパイラ、同・アルゴリズムとデータ構造入門、電気電子工学・自動制御工学、同・知能型システム論)、農学部5(応用微生物学実験、生物有機化学Ⅰ、造園学実習Ⅱ、コンピュータ利用と森林科学、農業の新戦略)、経済学研究科2(ITビジネスマネジメント、マネジメントコミュニケーション)、理学研究科2(霊長類の進化、非平衡統計)、医学研究科5(社会健康医学基礎スキルⅠ:文献検索・評価法、同Ⅱ:研究デザイン法、疫学コア、医療評価研究、研究プロトコル・研究マネジメント)、工学研究科2(電気電子基礎技術の展望、情報メディア工学特論)、人間・環境学研究科1(ウイルス多様性科学2)、情報学研究科1(電気電子基礎技術の展望)、全学共通科目15(国際通貨論、現代の大学・大学生論A、健康科学、現代物理学、*地球環境政策論IB、物理学概論、熱力学、計算理学基礎論、統計物理学、地球環境学のすすめ、環境形成論、*朝鮮・韓国学入門、医療の質と経済・社会・制度、遺伝学、*情報探索入門:図書館とインターネット情報の利用) *リレー講義

利用教育、大学図書館の生命線 利用者とのコミュニケーションの中から

❁ 「Suggestion Box」: 意見箱とHPへの投書

「監事監査報告書」(平成16年度)の指摘事項

「学生の要望を取り入れ、参加意識の持てる仕組みの実現」に基づき
平成17年11月に設置(11月12日～3月末までに 35件)

＜意見の内容＞

1. Back Number Centerの移設(25件)
2. マイクロフィルムReader Printer(2件)
3. Media Commons(2件)
4. Open Space Laboratory(1件)
5. 開館期間、貸出期間延長(1件)
6. OPAC検索(1件)
7. HPのレイアウト(1件)
8. ギリシア語辞典(1件)
9. 学内教員(数学)への相談(1件)



利用教育、大学図書館の生命線 業務改善・組織変革の中で

❁ 組織：センター化、フラット化、グループ化

「業務センター」「支援センター」：集中処理による効率化

「フラット化：課長補佐、専門員、掛長」：意思決定の迅速化

「グループ化：利用者支援、貸出・運用」：機動的で柔軟な対応

❁ 業務改善：簡素化、外注化・派遣、一元化

18年度以降に実施予定事項：「図書の受入業務等」（一元化）

実施済み事項：「図書の所管換え手続き」

「図書館紹介状発行業務」

「図書館等における貸出・返却、閲覧業務」（簡素化）

「図書館利用者の新規住所登録作業」（一元化）

❁ 能力開発・研修：職員参加で活発に展開

【17年度】無線綴じ洋装本の保存と修復、著作権法・個人情報保護法と図書館、NCRおよびAACR2、レファレンスインタビューの技術など

【18年度】会計基準・図書管理規則、図書受入・資産管理、雑誌受入・契約、図書館職員のための接遇マナー、セキュリティ講習会、目録情報の品質管理と書誌作成のポイント、整理技術の最新動向、保存の科学と書庫環境、資料保存実習



おわりに

利用教育、大学図書館の生命線

- ❁ ライフラインとして大学に必須のサービス品目
- ❁ 広報とPR(あらゆる機会を捉えた戦略的な広報)
- ❁ 取り組み体制の整備と柔軟な対応
- ❁ コアコンピテンス(組織として守り育てるべき資産)
- ❁ 職員の養成とキャリアパス(専門職)
- ❁ 望ましい職員像(指導力、企画力、組織力、交渉力、政治力、評価力、問題解決能力、表現力)

